

別紙

地域対話の基本的な検討に向けた留意事項集 【要旨】

1. 目的

- この「留意事項集」は、新たに文献調査を実施する地域で、対話の場等の設置の際に、検討段階から留意すべき事項を整理したものです。検討の際は、特に重要なポイントを念頭に留意事項集を参照しながら、地域の特性や意向に応じて住民の方々が参加する場の開催を検討していきます。

2. 対話の場とは

<設置の目的>

○対話の場は、場に参加する方に加えて、場に参加していない地域の方々にも、対話の場からの情報発信に触れることで、ひとりひとりが地層処分に関する多様な意見に触れ、自身の意見にたどり着くことを目的に開催します。

<対話とは>

○対話は、結論を出すことが求められる議論とは異なり、専門家との質疑や意見交換、あるいは地域や家庭などでの様々なやりとりを通じて、価値観の異なる他者の意見にも触れながら、気づきや発見を交えて自らの考えを深めていくためのものです。NUMOと住民、専門家と住民、住民同士などの様々なやりとりを指します。

3. 得られた知見

○北海道2自治体での取組事例やインタビューから得られた知見についてポイントをまとめました。

- ① 対話の場の設置と住民の方々の理解や納得感の得られるプロセス
- ② 会則・ルールの設定及び目的の明確化と共有
- ③ ファシリテーターによる進行と運営の中立性の確保
- ④ プライバシーに配慮した話やすい環境づくりと場の透明性の両立
- ⑤ 多面的な情報提供への配慮
- ⑥ 公募や傍聴による多様な住民の方々の参加
- ⑦ 分かりやすい表現と周辺自治体を含む場に参加していないの方々への周知や広がり
- ⑧ 一般住民の方の勉強や視察・見学の機会の拡大
- ⑨ 国・自治体・NUMOの積極的な関与

4. 留意事項の中で最も重要な3つのポイント

- 対話の場は、地域の特性や意向を尊重しながら、地域ごとに場づくりを行います。検討の際にどの地域や形式においても共通して重要なポイントを、下記3点にまとめました。

1. 地域にとって開かれた場になっているか（納得感が得られるような場やプロセスであるか）
2. 多様性の観点を考慮に入れているか（参加者が偏りのある構成となっていないか）
3. 提供する情報のバランスは工夫されているか（NUMOだけの一面的な情報提供となっていないか）

5. 検討の進め方

① 場のデザイン

- ・場の目的と形式
- ・参加者の構成・人数・選び方
- ・主催者と事務局ほか

② 設置に向けた準備

- ・参加者の募集や選考
- ・ファシリテーターと進め方の相談
- ・会場、スケジュール、資料準備ほか

③ 場の運営・支援

- ・会則・ルール案の検討
- ・場の公開のあり方
- ・結果の周知ほか

6. 検討の主なひな形

ひな形	【ひな形A】 組織団体の長と住民公募で 構成するハイブリッド型	【ひな形B】 一般住民により構成される 無作為抽出型	【ひな形C】 誰でも参加できる 自由参加型
目的	▶ 地域の主な組織・団体の長の立場の方々や公募の住民が集まって意見交換を行う場	▶ 地域の縮図を構成し多世代の一般住民の方々が集まって意見交換を行う場	▶ 地域住民なら誰でも自由に参加ができ勉強や意見交換ができる場
参加者	組織・団体・地区等の長 公募による住民の方々	無作為抽出	自由参加
人口規模	母集団が比較的小さな規模の 自治体等	母集団が比較的大きな規模の 自治体等	特になし
場所数	地域に1箇所		地域内で複数箇所
議題決定	場の参加者による運営委員会方式		開催ごとに相談
主催者	関係住民及び関係自治体等（または実行委員会）		個別の要請主体
事務局	NUMOまたは第三者機関等		主催団体、自治体、NUMO、 または第三者機関等